

資料 3

第 17 回日本水大賞 各賞 選定理由

大 賞 (副賞 200 万円) 岩手県 学校

活動主体の名称：岩手県立宮古工業高等学校 機械科 課題研究 津波模型班

活動の名称：地形特性を反映した津波模型による疑似津波の実演活動

○受賞理由

「風化してはいけない津波災害」を記憶に残すため、平成 17 年から宮古湾など地区ごとの地形特性を反映した「津波模型」を製作し、地域住民や小中学校を対象として、この 10 年間に 100 回を超える疑似津波の実演会を開催してきました。この活動さなかの平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、大津波によって数多くの犠牲者が出ましたが、実演会を開催した 15 校の小中学校では、登校していた児童生徒全員が無事でした。この経験を生かし、地域の地域だけではなく、南海トラフ地震で津波被害が想定されている関西方面の府県で 22 回、また今年仙台で開催された第 3 回国連防災世界会議でも実演するなど、津波防災意識の普及・向上に努めています。

災害の記憶は時間とともに風化していきます。この風化を防ぎ、防災意識を伝えていくことが、被害を少なくするうえでいかに重要なことであるかを本活動は証明してくれました。地元での活動を継続するとともに、この経験を広く伝える取組は、全国の模範となるものであり、高く評価できるものであることから、大賞に相応しいと判断しました。

国土交通大臣賞 (副賞 50 万円) 福岡県 団体

活動主体の名称：直方川づくり交流会

活動の名称：「川づくりは人づくり」～市民による川づくり 遠賀川夢プラン～

○受賞理由

より市民に親しまれる遠賀川をどう創っていくのか、さらにはどのような姿で子孫に残していくか。この課題を市民と行政と一緒に考えようと、平成 8 年に交流会を発足し、200 回を超える議論を経て「遠賀川夢プラン」を提案しました。この提案によって生まれ変わった水辺は、平成 21 年度の土木学会デザイン賞最優秀賞を受賞しました。また、こうした水辺を生かした「河川環境教育」活動を活発に展開しており、ここで学んだ子供達が、大学で水環境分野を専攻したり、過去 3 回の「世界子供水フォーラム」に日本代表として参加するなど、環境保護や水質問題等に取り組む次世代の育成にも成果を上げてきました。

行政と協働した川づくりや「河川環境教育」を通じた人づくりなどの活動を 19 年間にわたり継続してきたことは、高く評価できるものであることから、国土交通大臣賞に相応しいと判断しました。

環境大臣賞（副賞 50 万円） 大阪府 団体

活動主体の名称：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

活動の名称：よみがえれ、イタセンパラ！～多様な主体が連携する生物多様性保全の取り組み～

○受賞理由

淀川のシンボル「イタセンパラ」は、平成 17 年を最後に確認が途絶えました。国や府は飼育しているイタセンパラの野生復帰を目指して平成 21, 23 年に放流を行いました。密漁や外来魚による食害などの問題もあり、希少生物の保全を行政主導で進めることには限界がありました。このため行政だけではなく、地域の市民団体や大学、企業などが広く連携して、外来魚の駆除や河川清掃、密漁防止につながる啓発活動を行うなど、地域の希少生物を保全する環境が整えられてきたことから、平成 25 年秋には市民の手による放流が実現しました。

希少生物の保全や野生復帰には地域全体での取り組みが不可欠で、淀川のイタセンパラの野生復帰を目指す本活動は、都市域における希少生物保全に向けた体制づくりのモデルとなるものであり、高く評価できるものであることから、環境大臣賞に相応しいと判断しました。

厚生労働大臣賞（副賞 50 万円） 神奈川県 行政

活動主体の名称：横浜市水道局

活動の名称：川井浄水場再整備による環境に配慮した水道システムの実現

○受賞理由

横浜は近代水道創設の地であり、これまで 120 年以上にわたって安定した水量と良好な水質の水道水を供給してきました。しかしながら、現在の水道システムは、順次施設整備が行われてきた結果、膨大なエネルギーや薬品を必要とするものになっています。このため、高低差の利用や先進技術である膜ろ過方式の採用、水源林の保全活動による良好な原水水質の確保など、使用するエネルギーや薬品を少なくすることによって、維持管理コストと環境負荷を削減し、持続可能な水道システムへの再編を進めています。

安定した水量と良好な水質の水道水を供給することにとどまらず、水道システム全体で使用するエネルギーや薬品の削減を目指した取り組みは、他の水道事業者の模範となるものであり、高く評価できるものであることから、厚生労働大臣賞に相応しいと判断しました。

農林水産大臣賞（副賞 50 万円） 沖縄県 学校

活動主体の名称：沖縄県立八重山農林高等学校 環境工学部

活動の名称： 高校生による美ら島プロジェクト
～赤土流出を防ぎ、自然環境保全への取り組み～

○受賞理由

沖縄の赤土は農作物の育成に必要な不可欠な土壌ですが、裸地化によって流出が増大してサンゴが死滅するとともに、貴重な名蔵川や宮良川のマングローブ林にも赤土の堆積によって陸化が進行するなど深刻な環境問題を引き起こしています。このため、カヌーや潜水による現地調査や農家への聞き取り調査などによって流出状況等を把握するとともに、さまざまな流出抑制方策についての実験、赤土を利用した陶芸、サンゴの植え付け、小中学生などへの環境教育など、「美ら島」を未来に残すためのさまざまな活動を行ってきています。

地域の長年の課題である赤土流出に、地元高校生が関心を持ち続けてさまざまな方面から取り組んでいる活動は、高く評価できるものであることから、農林水産大臣賞に相応しいと判断しました。

文部科学大臣賞（副賞 50 万円） 京都府・宮城県 学校

活動主体の名称：京都府立桂高等学校 宮城県立小牛田農林高校

活動の名称： 耐塩芝と塩を利用した河川・海岸堤防の緑化

○受賞理由

堤防では環境上の観点から除草剤の散布が規制されており、雑草の抑制に多大の費用を要しています。宮城県の金華山で発見した自生の日本芝種が、耐塩性が高いことに着目し、除草剤の代わりに塩を散布することで雑草を抑制できないか、研究を行いました。多くの植物は 1%の塩水で枯死し発芽もしなくなりますが、金華山で発見した芝は 3%の塩水でも成育することが試験で確認され、この耐塩性の違いを利用して実際に雑草の抑制ができるか、実際の堤防で実証実験を行いました。発芽率を高める技術開発を行い、この技術を地元の生産者に提供して短期間に芝を生産しました。平成 26 年に実証実験を始めて一年経過しましたが、雑草の抑制効果が発揮されています。

短期間に、広範な連携体制をつくり、試験や実証実験を行って実用可能な技術開発に取り組んでいることは、高く評価できるものであることから、文部科学大臣賞に相応しいと判断しました。

経済産業大臣賞（副賞 50 万円） 東京都 企業

活動主体の名称：株式会社 伊藤園

活動の名称：地域の水環境保全を支援する CSR 活動「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクト

○受賞理由

伊藤園では、地域の水環境・水資源・水文化の保全のために行われている活動を支援しています。平成 20 年から始めた「お茶で琵琶湖を美しく」プロジェクトでは、琵琶湖環境保全活動として、ヨシ帯再生のために寄付、社員や家族などによるヨシ刈りボランティア等の活動などを行っています。また、平成 22 年からはこの活動に加えて、全国的に展開した「お茶で日本を美しく」プロジェクトを始めました。平成 25 年度は全国 23 箇所の活動に寄付するとともに、多くの社員や家族などが活動に参加しています。また、専門家による講習などの社員教育や優れた活動に対する表彰など、社員のモチベーション向上にも努めています。

地域を特定して水環境を重視した活動を財政的に支援するとともに、伊藤園の CSR 活動と密接に連携させていることは、高く評価できるものであることから日本水大賞委員会は、経済産業大臣賞に相応しいと判断しました。

市民活動賞（副賞 30 万円） 埼玉県 団体

活動主体の名称：綾瀬川を愛する会

活動の名称：綾瀬川、ともに歩んで 19 年

○受賞理由

綾瀬川は、急激な都市化に伴う家庭排水の増加やゴミの不法投棄などによって、全国一級河川の水質ランキングで 15 年連続してワースト 1 になるなど、著しく汚濁が進んだ川でした。この劣悪な環境を改善するため、堤防や河畔のゴミ拾いや水質調査を 20 年にわたって毎月継続して実施するとともに、排水対策を県や市と連携して行うために、食器の洗浄に中性洗剤を使わない「アクリルタワシ運動」や浄化槽の普及など家庭排水の水質改善に努めてきました。また、河川工事によって失われることになった河畔林を、県と粘り強く交渉して「綾瀬の森」として復元し、子供たちの環境教育の場として活用しています。

綾瀬川を住民と行政を動かして見事に蘇らせた、長年にわたる市民率先型の活動として高く評価できるものであることから、市民活動賞に相応しいと判断しました。

国際貢献賞（副賞 30 万円） 東京都 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 APEX

活動の名称：アジア地域に適した住民参加型コミュニティ排水処理システムの開発と普及

○受賞理由

アジア地域の住宅密集地では、生活排水が適切に処理されず、劣悪な衛生環境に置かれ、また深刻な水質汚染を招いている。下水道の整備には多大な投資が必要であり、その普及には時間がかかることから、平成 7 年からアジア地域に適合した安価で運転管理の易しい排水処理技術の開発と普及に取り組んできました。平成 13 年からは、インドネシアの NGO と協力して現地の条件にあった水処理システムを開発するとともに、研修などを通じて住民自らが運転管理できるようにする自立的・持続的なモデルシステムをこれまで 8 地区において構築するなど普及に努めています。

地域の条件にあった技術を開発し、住民が自己負担・自己管理で運転を継続する自立的なモデルシステムを構築するとともに、技術研修やプログラム研修によってその普及に努めていることは、国際協力として高く評価できるものであることから、国際貢献賞に相応しいと判断しました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 大阪府 団体

活動主体の名称：公益財団法人 山本能楽堂

活動の名称：水の大切さを次世代に伝える 新作品「水の輪」

○受賞理由

新作品「水の輪」は、水都大阪の復興を願って行われた「水都大阪 2009」の最終日を彩るイベントとして制作・初演されました。汚れた川が、水鳥に扮する子ども達によって美しく清められる事により、水が美しく甦り、美しい水にしか住む事のできない水の神様が現れて繁栄を寿ぐという、水の浄化の環境問題をテーマにした物語です。5 年間で 11 回再演しましたが、水が世界を循環し、水鳥たちが自由に国境を越えて行き交うように、上演を通して「水を大切にす気持ち」で世界を一つに繋げていきたいと願い、国内外で活動しており、2010 年には在日の外国人が出演して「水を大切にす気持ち」気持ちを母国語で表現し、2011、12 年のブルガリア共和国での公演では、約 30 名の日本語を学ぶブルガリア人の子ども達が「大阪ことば」で出演しました。

日本の古典芸能に未来を担う子どもたちが参加して行うユニークな水文化活動であり、水の大切さを国際的にも発信しようとしている姿勢は高く評価でき、これからのさらなる活動の展開を期待し、未来開拓賞に相応しいと判断しました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 岐阜県 団体

活動主体の名称：岐阜県自然共生工法研究会

活動の名称：水生生物の移動を支える河川環境のきめ細かな修復活動

○受賞理由

良好な水環境のためには水生生物の移動性確保が重要です。岐阜県の県管理河川と砂防施設には 673 基の魚道が設置されていますが、土砂の堆積や施設の破損、河床変動によって機能低下などが見られる魚道もあり、適切な維持管理が求められていました。そこで平成 23 年に魚道 WG を設けて、学識者や県との協働で「魚道カルテ」と手引書を作成し、専門知識が多くななくても魚道の点検が行えるようにしました。これを受けて、平成 25 年に県が「フィッシュウェイ・サポーター」制度を制定し、委嘱された 115 名の漁業協同組合員や県民等により 231 箇所 of 要補修箇所が確認されました。

既設の魚道の機能の維持管理を専門知識が少ない人でもできるように、共通の調査フォーマットとしての「魚道カルテ」と手引書を作成したことは、地域の目による維持管理への道を拓いたものであり、今後の展開を期待して、未来開拓賞に相応しいと判断しました。

未来開拓賞（副賞 10 万円） 熊本県 学校

活動主体の名称：熊本市立天明中学校生徒会

活動の名称：中学生が地域と連携し、地域との協働による環境保全活動

○受賞理由

校区が緑川の河口で有明海に面しているという立地を生かして、中学生が楽しく水環境問題を学んでいます。山については、植林や下草刈りなどに参加して荒廃している森林の現状を体感するとともに、森づくりの重要性を学んでいます。川については、カヌー体験などの水遊びに参加するとともに、一時期汚染が酷かった川を改善してきた苦勞を学び、自分たちも竹炭による河川浄化活動やビオトープの作成を行っています。海については、川からの水の変化が漁業に与えた影響を学び、海浜の清掃活動などを行っています。これらの活動を通じて、地域の環境問題に取り組んでいる諸団体から、自然愛護だけではなく、地域貢献や郷土愛などの精神も学んでいます。

20 年もの長い期間にわたり生徒会活動として継続してきたことは、ふるさとを守り育てる後継者を育成する観点からも重要であり、今後の継続・展開を期待して、未来開拓賞に相応しいと判断しました。

審査部会特別賞（副賞 10 万円） 静岡県 団体

活動主体の名称：興津川保全市民会議

活動の名称：「命の水」を守る ～興津川流域での市民活動～

○受賞理由

地域の水道の源流である「興津川」の水質・水量・流域の豊かな自然環境を守るためには、行政だけではなく、市民総参加による保全活動が重要であることから、平成 6 年に個人、自治会、商工会議所、女性の会、漁業組合、森林組合、企業など幅広い組織で構成された市民会議が設立されました。これまで 20 年間にわたり、1000 名以上が参加する「興津川クリーン作戦」、市民が植林や下草刈りなどに参加する「市民の森づくり」、川に親しむ「川遊び・鮎釣りセミナー」、水生生物の観察学習会「川のセミナー」、蛍鑑賞会、森林探検隊など、年間を通じたさまざまな活動を展開しています。

地域の自然環境や水環境の保全および体験型環境学習に対して、幅広い組織の市民が多数参加して、長年にわたり活動を継続してきていることは、高く評価できるものであることから、審査部会特別賞に相応しいと判断しました。

審査部会特別賞（副賞 10 万円） 北海道 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 グラウンドワーク西神楽

活動の名称：旭川市西神楽地域 さと川づくり活動

○受賞理由

本来、地域を流れる川は住民生活と深い関わりがありましたが、次第に用水の供給や防災の対象としての色彩が濃くなり、住民生活との関わりが薄らいできていました。そこで平成 8 年から、子供達に誇れる未来ある「ふるさと」を作り上げるために「さと川づくり事業」を開始しました。この事業では、清掃活動や自然観察会などの啓発活動、フットパスやビオトープなどの整備、防災教育や訓練の実施、地元産の食材を活用した「ミニ食マルシェ」の開催や住民手づくりの「さと川パークゴルフ場」の造成と運営・管理など、幅広い活動を住民が主体となって実施しています。

地域住民が主体となり河川空間を再認識することによって地域づくりを進めようとする活動であり、長い期間にわたり幅広い活動を行っていることは高く評価できるものであることから、審査部会特別賞に相応しいと判断しました。

審査部会特別賞（副賞 10 万円） 東京都 団体

活動主体の名称：特定非営利活動法人 風土工業デザイン研究所

活動の名称：河川流域の誇りうる風土形成に資する創作活動

○受賞理由

ダムの水源地は、主として地域の水資源を供給の場として捉えられており、水環境の保全の観点からその重要性が語られることが多いが、水源地には古くからの風土資産が数多く残されており、これも地域にとって大切な宝です。このため、その土地の言い伝え、伝統などを深く掘り起し、それらの風土資産を題材とした民話や歌留多、賛歌等を数多く創作して公表してきました。

水源地文化を新たな視点で紹介するユニークな活動であり、高く評価できるものであることから、審査部会特別賞に相応しいと判断しました。

2015 日本 S J W P 各賞 選定理由

大 賞 (S J W P へ日本代表として派遣・副賞 20 万円)

学校・クラブ名：東京都立多摩科学技術高等学校 科学研究部
調査研究の表題：黄金井の水環境 ～「ハケ」と共に生きる水～

酸性雨が世界的な規模で土壌や水環境に大きな影響を及ぼしているなか、本校が立地する地域を流れる小河川の流水に比べて、河岸段丘の崖線からの湧水の酸性化が抑制されていることを不思議に思い、この要因を明らかにするため、河川や湧水の水質、及び本地域で数万年前に形成された段丘を砂礫層と互層で構成する、ローム層の「ハケ土壌」の化学的調査研究に取り組んだ。

この結果、「ハケ土壌」に含まれる腐植化度の高い有機物と無機物の相互作用によって、ここを通過する地下水の酸性化への緩衝作用が強められていることが明らかになった。

他方でわずかではあるが、本地域の湧水の水質 (pH, 水温等) にも、季節・天候に左右される傾向が現れていることが確認され、ハケ土壌の緩衝作用に一定の限界が訪れつつあるのではないかと警鐘を鳴らし、対策の必要性を社会に訴えている。

このように、河岸段丘崖下部に共通する水・土壌環境の特質と湧水の水質悪化抑制のメカニズムを解明し、これを酸性雨による地域水環境悪化対策に繋げる本調査研究は、今後の地域水環境の保全に大きく寄与することが期待されることから、日本ストックホルム青少年水大賞を授与することとした。

審査部会特別賞 (副賞 10 万円)

学校・クラブ名：青森県立五所川原農林高等学校 環境土木科 水循環研究室
調査研究の表題：決め手は地下かんがい！～環境保全農業を目指して～

耕作放棄されることが多い排水不良水田に地下かんがいシステムを導入し、田畑輪換可能な汎用性のある耕地を造成して、米・大豆の田畑輪換耕作を実験した。この結果、労力の節減に加え、肥料・除草剤の節減、作物生育環境の改善等から環境保全型農業が可能となること等により、商品作物の付加価値向上がもたらされることを実証している。こうした試験研究実績をもとに、水田地下かんがい方式を地域農業に普及する活動を展開しつつあり、その更なる発展を期待して、ここに審査部会特別賞を授与することとした。